

わかりやすい財政公表

～八尾市のお金の使いみち～

令和 5 年度決算

八尾市 財政部 財政課

～ 目 次 ～

1. 財政ってなに？	2 ページ
2. 決算をみてみよう	
① 会計の種類	3 ページ
② 一般会計決算の概要	4 ページ
③ 歳入決算の内訳（入ったお金）	5 ページ
④ 歳出決算の内訳（使ったお金①）【目的別】	6 ページ
⑤ 歳出決算の内訳（使ったお金②）【性質別】	7 ページ
⑥ 特別会計、企業会計決算の概要	8 ページ
3. 借金はどれくらいあるの？	9 ページ
4. どうして借金するの？	10 ページ
5. 借金は多いの？少ないの？	11 ページ
6. 貯金はどれくらいあるの？	12 ページ
7. 財政状況は大丈夫？	13 ページ
（参考）八尾市の家計簿	14 ページ

1 財政ってなに？

地方公共団体は、子育て世帯・高齢者・障がい者に対する支援、ごみの収集・運搬、道路・公園・下水道の整備、消防・救急業務、小・中学校の運営など、さまざまなサービスをおこなっています。

これらのサービスを計画的におこなうために、毎年度（4月～翌年3月）

①使えるお金がどのくらい集まるかを予測したうえでその使いみちを決め、

＝「予算」

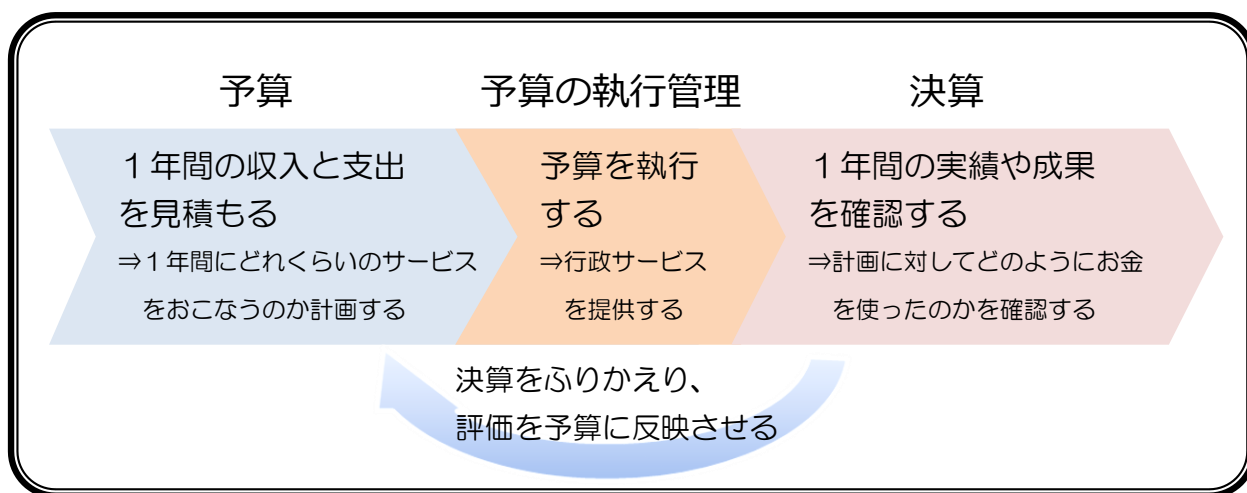
②予算の範囲内で行政サービスをおこない、

＝「予算の執行管理」

③最終的にお金がどのくらい集まり、どのように使われたかを確認します。

＝「決算」

⇒ この一連の流れを、財政といいます。



2 決算をみてみよう

① 会計の種類

「会計」とは、市のお財布のことです。事業の内容に応じてお金を分けて管理するために、八尾市では、「一般会計」「特別会計」「企業会計」の3種類のお財布を作っています。

それぞれの会計が管理するお金は次のとおりです。

一般会計	特別会計	企業会計
福祉、医療、子育て、教育、道路や公園の整備など、市民の暮らしや、まちづくりに必要な基本的な行政サービスをおこなう会計です。 市税は、主にこの一般会計で使われています。	保険料など特定の収入によって事業をおこない、その収支を明確にするために一般会計とは別に設置した会計です。 国民健康保険事業など計6つの会計があります。	民間企業と同じように事業収益によって運営している会計です。 病院事業と水道事業と公共下水道事業の計3つの会計があります。

それでは、次のページから会計別の決算内容についてみてみましょう。

市の会計は、一般会計で一番大きなお金を管理していますので、一般会計を中心にみていきます。

② 一般会計決算の概要

令和 5 年度の一般会計決算は、

入ったお金（歳入）は、1,223 億 687 万円、

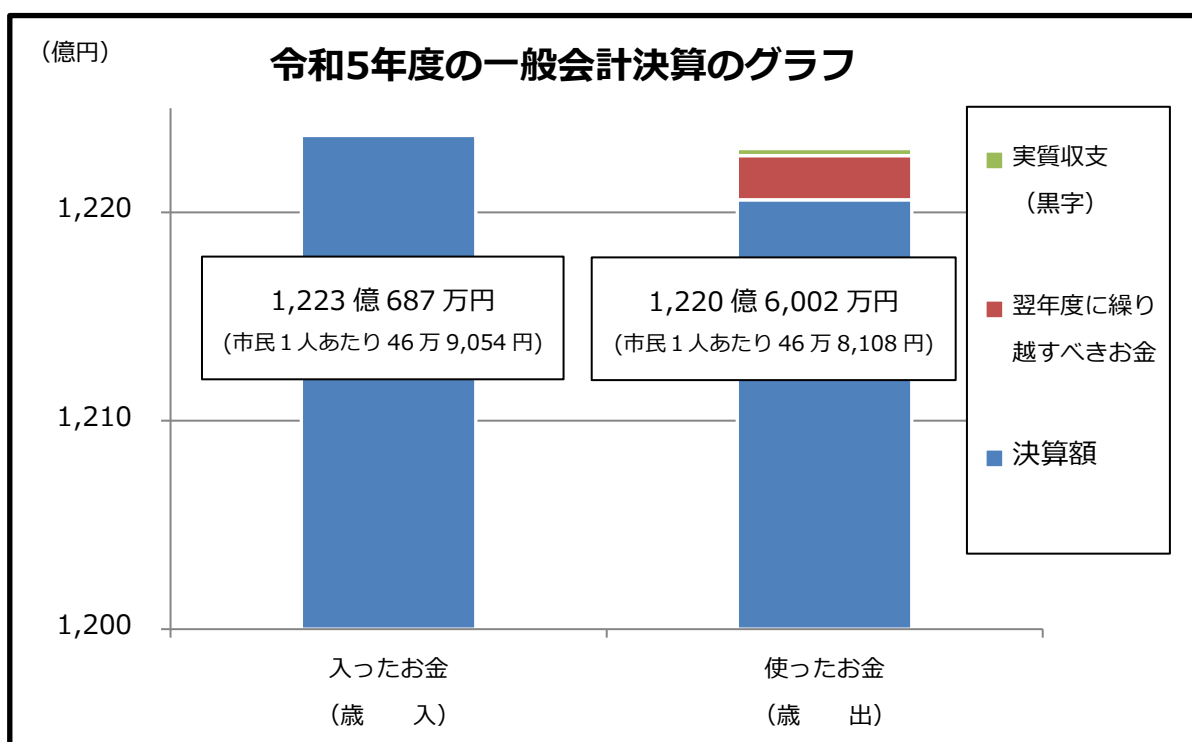
使ったお金（歳出）は、1,220 億 6,002 万円です。

また、

残りのお金（形式収支 = 歳入－歳出）は、2 億 4,685 万円で、

そのうち 2 億 1,216 万円は、令和 5 年度中に完了しなかった事業のためのお金として翌年度に持ち越して使います。

結果、3,469 万円が残り、令和 5 年度決算は黒字（実質収支）となりました。



★ポイント★

令和 5 年度一般会計決算は、財政調整基金（市の貯金）6 億 5,000 万円を取り崩すことで、翌年度への持ち越しを加味しても黒字となりましたが、歳出の増加に伴い単年度収支については 2,164 万円の赤字となりました。

※市の貯金（基金）については 12 ページで説明します。

③ 歳入決算の内訳（入ったお金）

市に入るお金は次のとおり大きく2つに分けることができます。

「市が自主的に集めるお金」 ＝ 自主財源 ※グラフ中で㊟をつけているもの

「国・府などから入ってくるお金」 ＝ 依存財源 ※グラフ中で㊤をつけているもの

㊟自主財源 478 億 8,153 万円

市が自主的に集めるお金
(全体の 39.1%、前年度比 1.9%増)

㊤依存財源 744 億 2,534 万円

国・県などから入ってくるお金
(全体の 60.9%、前年度比 3.1%減)

㊟その他 33 億 3,421 万円

財産の売払い金などです。
(全体の 2.7%、前年度比 22.2%増)

㊟寄附金 17 億 3,781 万円

市内外の方々からの寄附金（ふるさと納税など）による収入です。
(全体の 1.4%、前年度比 13.2%減)

㊟使用料・手数料 15 億 234 万円

市の施設を利用したときや、証明書を発行したときにいただくものです。
(全体の 1.2%、前年度比 2.8%増)

㊟分担金・負担金 7 億 6,213 万円

事業の経費の一部を、受益者の方に負担していただくものです。
(全体の 0.6%、前年度比 4.1%減)

㊟市税 405 億 4,504 万円

市民の皆さんから八尾市に納めていただいた税金です。
(全体の 33.2%、前年度比 1.3%増)

㊤その他 25 億 1,078 万円

市民の皆さんが国や府に納めた税金の一部などが交付されるものです。
(全体の 2.1%、前年度比 14.4%増)

㊤国から入るお金 350 億 8,974 万円

市がおこなう特定の事業に対して、国が負担・補助したお金です。
(全体の 28.7%、前年度比 4.0%減)

㊤地方交付税 159 億 3,494 万円

市民の皆さんが国に納めた税金の一部などです。
(全体の 13.0%、前年度比 5.9%増)

㊤府から入るお金 94 億 7,709 万円

市がおこなう特定の事業に対して、府が負担・補助したお金です。
(全体の 7.7%、前年度比 2.9%減)

㊤地方消費税交付金 62 億 991 万円

市民の皆さんが納めた消費税の一部です。
(全体の 5.1%、前年度比 1.1%減)

㊤市債(借入金) 52 億 288 万円

銀行などからの借金です。
(全体の 4.3%、前年度比 25.1%減)

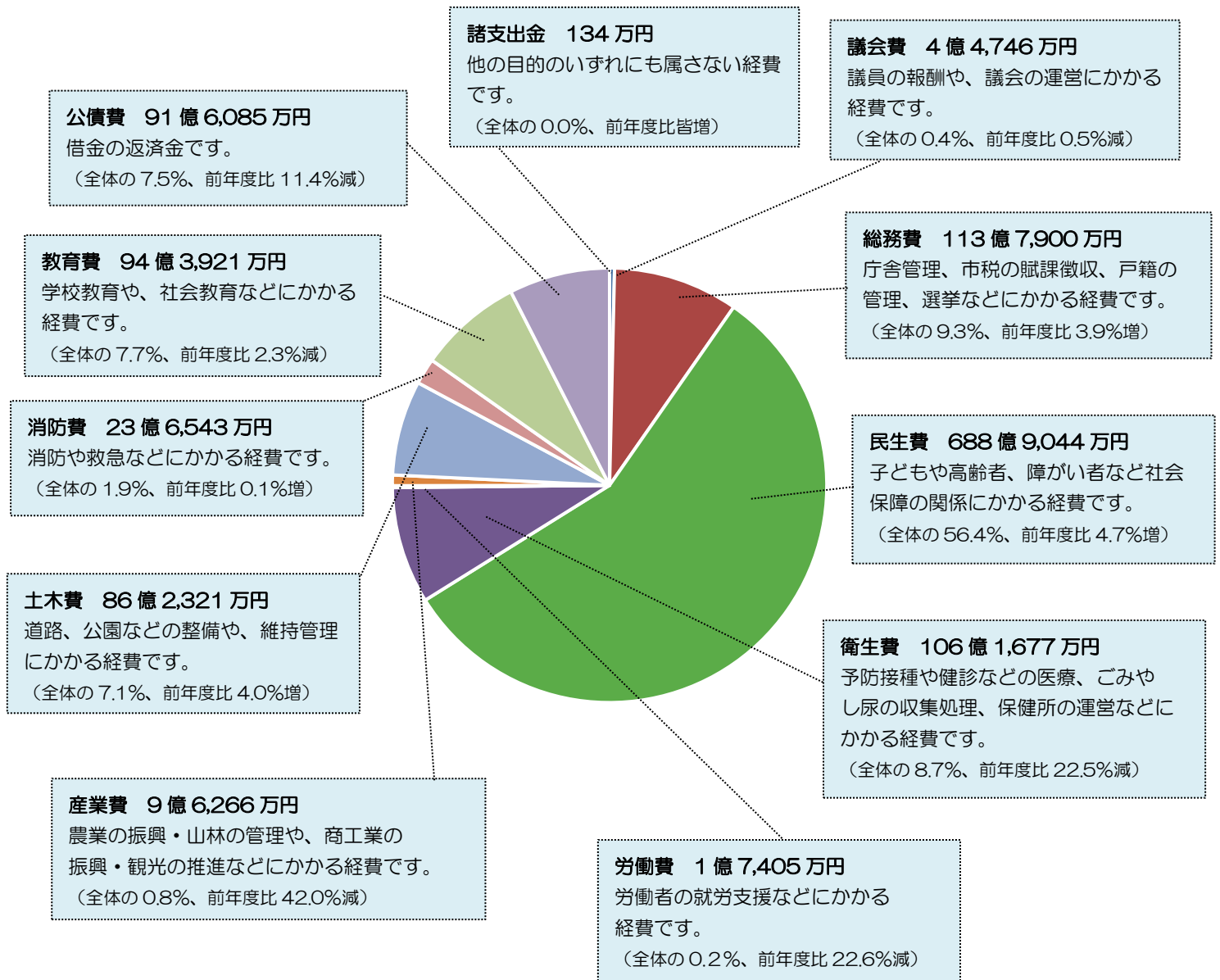
★ポイント★

収入の柱である市税を含む自主財源は全体の 39.1%と半分以下であり、市の運営は自主財源だけではまかなえない構造になっています。そのため、自主財源のさらなる確保に向けた取り組みをすすめる必要があります。また、国・府の動向をふまえて事業をおこなうことで、国・府から入ってくるお金の確保にも努めることが重要です。

④ 歳出決算の内訳（使ったお金①）【目的別】

次に、お金の使いみちについて見てみましょう。

まずは、「何のために」お金を使ったかです（【目的別】の使いみちといいます。）。



★ポイント★

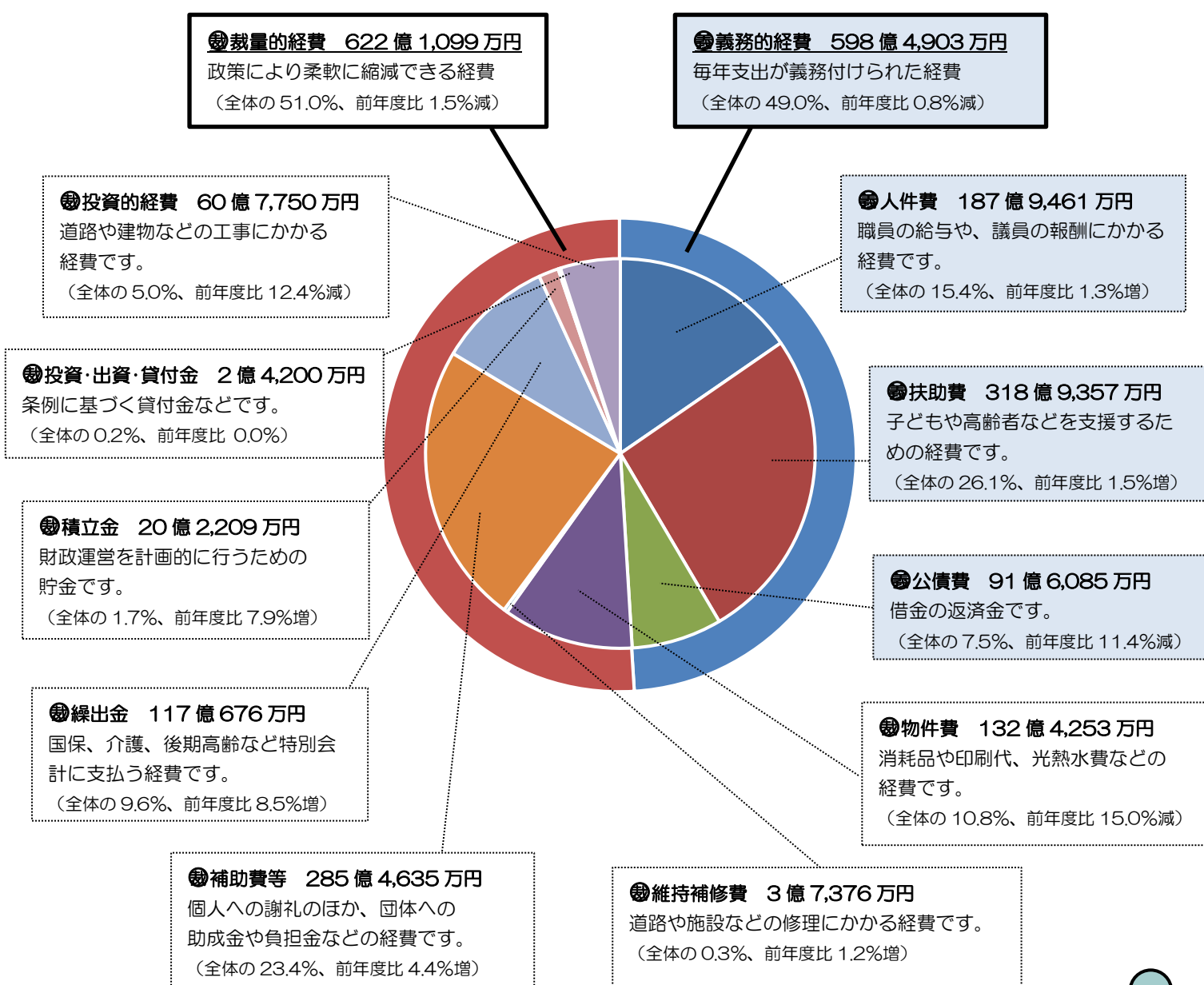
最も多い目的別の使いみちは「民生費」で、子育てや福祉関係にお金を多く使っています。「民生費」は、保育ニーズへの対応、医療費助成や障がい者サービスなどの社会保障関係経費の伸びにより、今後も高い水準で推移することが見込まれます。なお、電力・ガス・食料品等の負担増に対応するための電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金等により「民生費」は昨年度比 4.7%の増となり、一方で新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため新型コロナウイルスワクチン接種経費等の減により「衛生費」は昨年度比 22.5%の大幅減となっています。

⑤ 歳出決算の内訳（使ったお金②）【性質別】

続いて、「どんなことに」お金を使ったかです（【性質別】の使いみちといいます。）。

「政策により柔軟に縮減できる経費」＝ 裁量的経費 ※グラフ中で●をつけているもの

「毎年支出が義務付けられた経費」＝ 義務的経費 ※グラフ中で○をつけているもの



★ポイント★

義務的経費のうち、社会保障関係経費を含む扶助費は今後も高い水準で推移することが見込まれています。また、裁量的経費のうち、補助費等は障がい者サービス給付費の伸びが見込まれ、繰出金についても、高齢化の影響による医療費・介護関係経費の伸びに伴い、今後も増加することが見込まれています。なお、物件費については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため新型コロナウイルスワクチン接種経費等の減により、昨年度比 15.0%の減となっています。

⑥ 特別会計、企業会計決算の概要

最後に、特別会計と企業会計の決算状況について見てみましょう。

○特別会計

	入ったお金 (歳入)	使ったお金 (歳出)	余ったお金 (形式収支)	翌年度へ 繰り越す べき財源	決算 (実質収支)
国民健康 保険事業	275 億 5,680 万円	274 億 4,198 万円	1 億 1,482 万円	0万円	1 億 1,482 万円
財産区	152 万円	152 万円	0万円	0万円	0万円
介護保険事業	289 億 6,112 万円	288 億 775 万円	1 億 5,337 万円	0万円	1 億 5,337 万円
後期高齢者 医療事業	80 億 4,765 万円	78 億 6,034 万円	1 億 8,731 万円	0万円	1 億 8,731 万円
土地取得事業	9 億 8,639 万円	9 億 8,639 万円	0万円	0万円	0万円
母子父子寡婦 福祉資金貸付金	1 億 1,281 万円	3,573 万円	7,708 万円	0万円	7,708 万円

○企業会計

	総収益	総費用	単年度収益
病院事業	141 億 5,930 万円	155 億 5,581 万円	▲13 億 9,651 万円
水道事業	53 億 174 万円	49 億 4,432 万円	3 億 5,742 万円
公共下水道事業	94 億 6,261 万円	91 億 5,654 万円	3 億 607 万円

★ポイント★

病院事業会計については、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した後も引き続き病床を確保しましたが、補助金の大幅な減少等のため赤字決算となっています。

また、特別会計においてはすべての事業で黒字決算となっています。

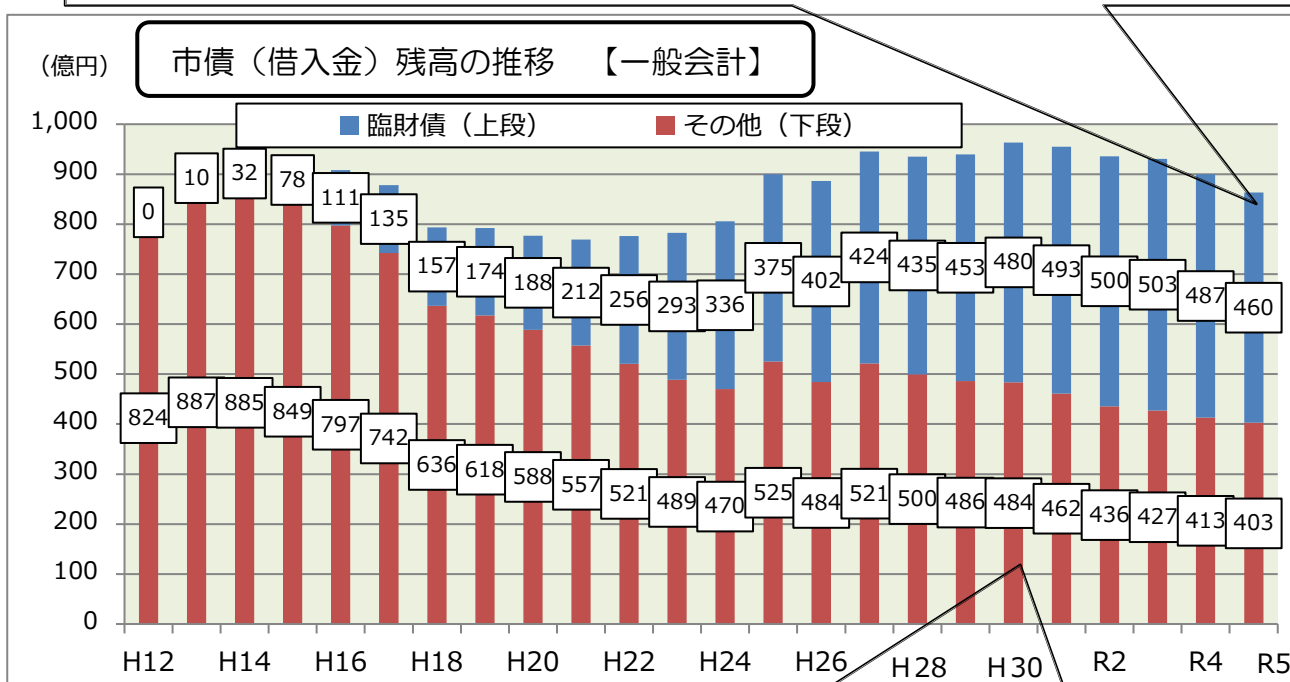
3 借金はどれくらいあるの？

一般会計における八尾市の借金は、令和5年度末時点で、約863億円あります。

これは、市民1人あたりに換算すると、約33万1,000円（臨時財政対策債を除くと約15万4,000円）になります。

また、国の代わりの借金である臨時財政対策債の残高は、発行額の減少、償還額の増加等により前年度に引き続き減少しました。

臨時財政対策債（臨財債）は、国の財政状況が良くないことから、地方交付税の一部を地方自治体に借金させる制度として始まり、平成13年度から発行しています。
国の財政状況が良くない状況が続いていることから、市債全体の過半数を占めています。



臨時財債以外の市債（借入金）は、主に公共施設の建設のために使われたお金です。
平成13年度以降、市債（借入金）の残高は減少傾向を続け、令和5年度においても前年度の市債残高を減少させることができました。

用語の解説

地方交付税

地方公共団体間では、都心部と過疎地では人口・企業数等に大きな差があるなど、毎年入ってくるお金にバラつきがあります。その中で、どの地域に住む人にも一定の行政サービスを提供できるように、国が集めた税金の一定割合の額等を、国が地方公共団体に交付する制度です。

臨時財政対策債（臨財債）

国が地方交付税を交付するにあたり、国の財政状況が良くないために準備しきれないお金の一部を、地方自治体自らに市債を発行（借入）させる制度です。その返済（償還）に必要なお金は、後年度に国から全額地方交付税で措置されますので、地方交付税の代わりとなるお金といえます。

4 どうして借金するの？

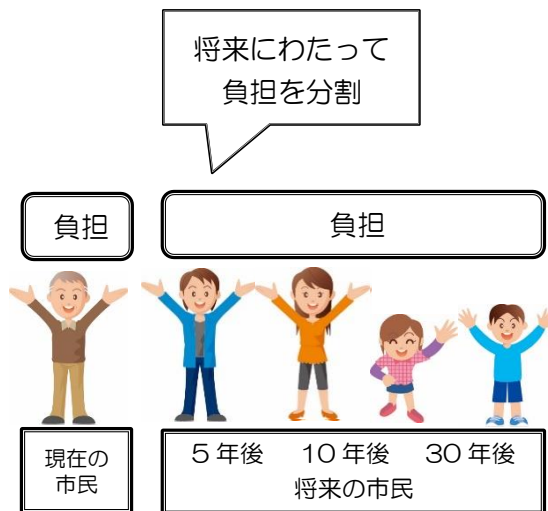
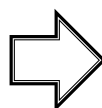
例えば学校を建てると、その後、何十年と使っていくことになるので、建てたときの世代の人たちだけでこのお金を負担するのは不公平です。建てる際に借金をして分割払いにすることで、将来の世代の人たちにも公平に負担してもらいます。

また、建物や道路の整備には多額の費用がかかるため、一度に支払ってしまくと、その年度は保育所の運営やごみの収集など他のことができなくなってしまうため借金をしています。

【市民負担のイメージ】



建設費をその年度の市民だけで負担するため将来の市民の負担はなくなります。



長い間かけて使うことができるものは、将来の市民も公平に負担する方が平等です。

★ポイント★

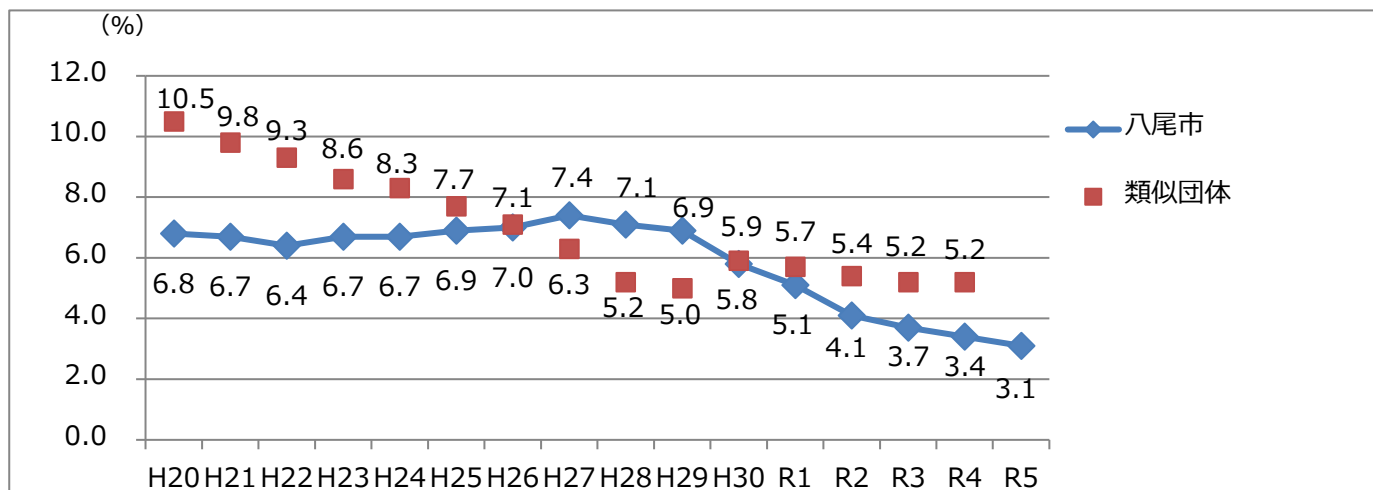
借金というと、「赤字の穴埋め」というイメージがありますが、市が行う借金は、基本的に建物や道路などを整備するためのものです。

毎月の生活費のために借りるのではなく、住宅ローンのように、何年も使っていくような大きな買い物の際にだけお金を借りています。

5 借金は多いの？少ないの？

実質公債費比率

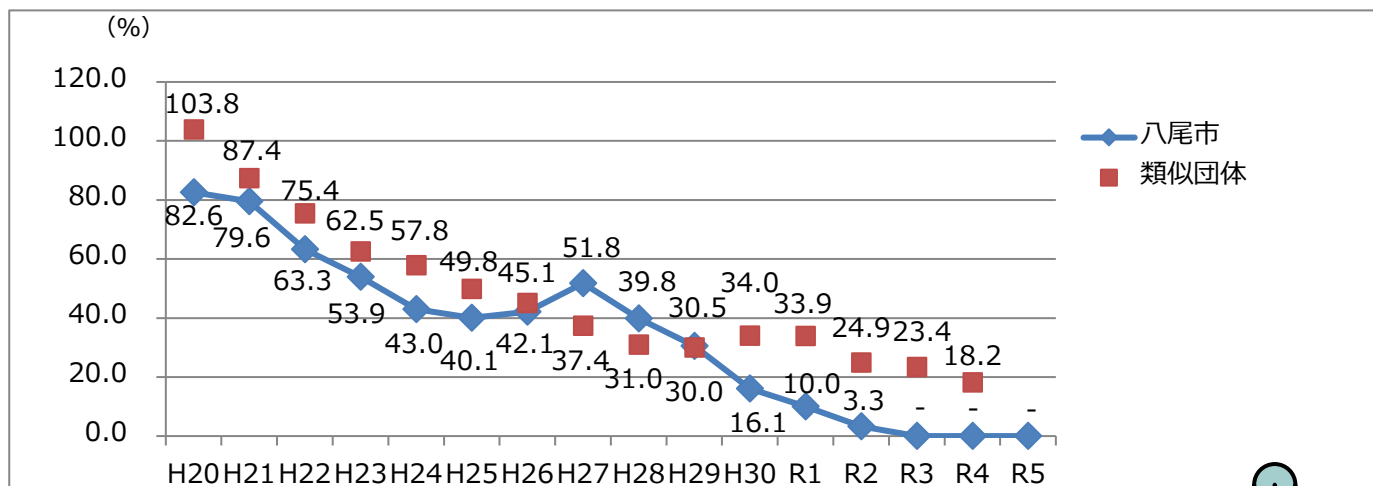
「実質公債費比率」とは、1年間の収入に対して借金の返済額がどれくらいの割合になるのか、借金返済の負担が大きすぎないかをチェックするための国が定める基準です。この割合が年収の25%（4分の1）を超えると危険信号が出されます。



将来負担比率

「将来負担比率」とは、借金や今後支出が見込まれる費用（職員の退職金など）のように将来負担しなければいけないお金が、1年間の収入に対してどれくらいあるのか、将来の負担が大きすぎないかを判断するための国が定める基準です。

この割合が年収の350%（3.5倍）を超えると危険信号が出されます。



★ポイント★

八尾市は、いずれの比率も国の基準を下回っており、類似団体よりもやや低い水準となっています。なお、危険信号が出されると早期健全化団体と呼ばれ、財政再生計画の作成が義務付けられるなど一定の制約を受けることになります。

6 貯金はどれくらいあるの？

市の貯金のことを「基金」といい、八尾市には、大きく分けて次の2種類の貯金（基金）があります。八尾市の貯金（基金）は、令和5年度末時点で、約138億円あります。これは、市民1人あたりに換算すると、約5万3,000円になります。

①「財政調整基金」

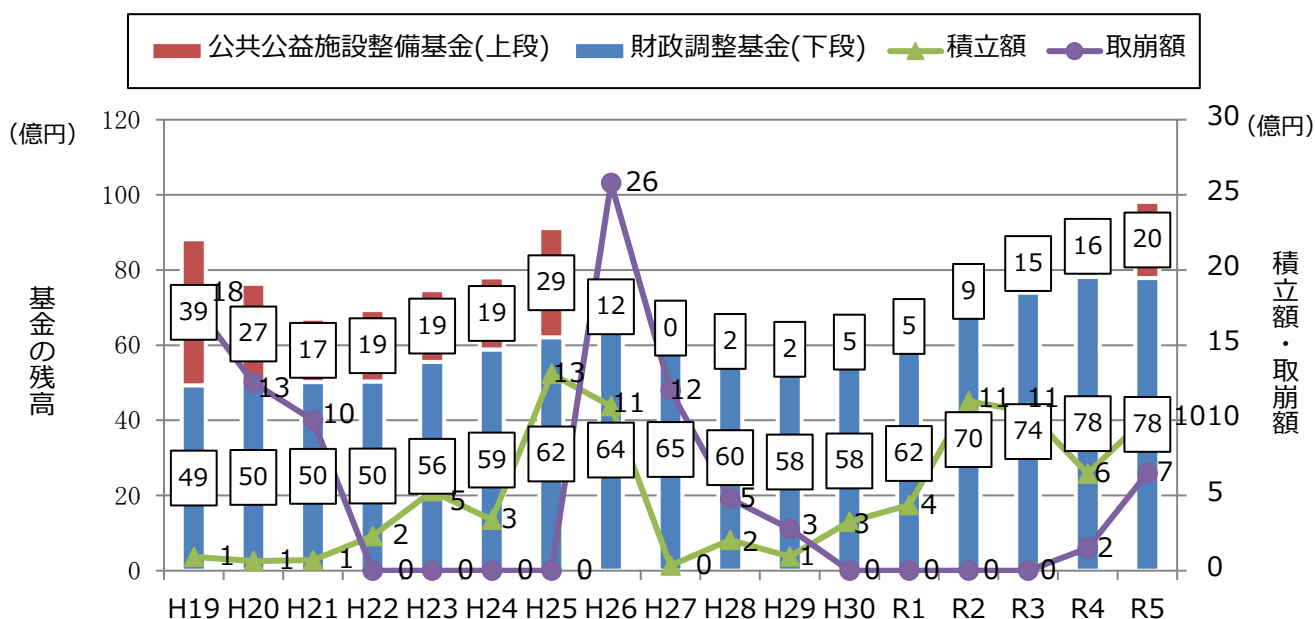
市の財政状況に余裕がある年に積み立て、不足する年に取り崩すことで財源を調整し、計画的な財政運営を行うための貯金です。

②「特定目的基金」

市の条例で定めた特定の目的を計画的に実施するための貯金です。主なものとして、公共公益施設の整備のために取り崩す「公共公益施設整備基金」があります。

⇒これらのうち、市の主な貯金（基金）である「財政調整基金」と「公共公益施設整備基金」の残高の推移は下のグラフのとおりです。

残高の推移 【財政調整基金と公共公益施設整備基金】



★ポイント★

令和5年度は昨年度に引き続き財政調整基金を取り崩しました。基金を取り崩したことで実質収支は黒字となっています。

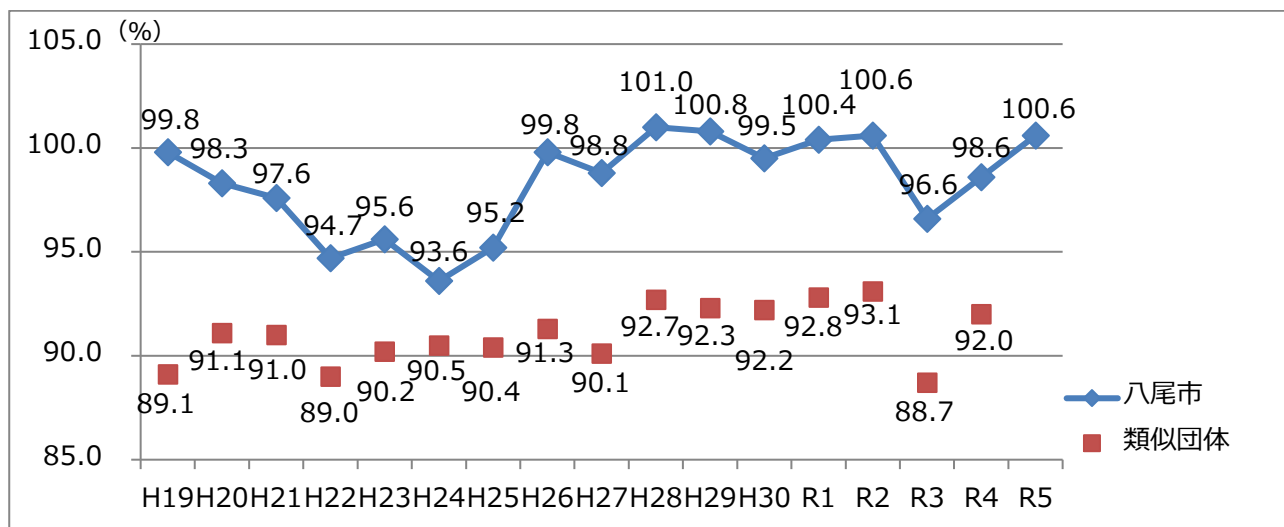
なお、財政調整基金・公共公益施設整備基金の主な2つの貯金をあわせた残高は、約98億円となっています。

7 財政状況は大丈夫？

令和5年度の決算状況をあらわす数値としてもう一つ、「経常収支比率」という指標をみてみましょう。

●経常収支比率とは・・・

毎年入ってくるお金が、どれくらい臨時的なものを除く義務的な経費に使われているかを示す割合をいい、この割合が高いほど、市が自由に使うことができるお金が少ないことになります。



まとめ

令和5年度は昨年度に引き続き貯金（基金）を取り崩しました。また、経常収支比率は前年度の98.6%と比べると2.0ポイント悪化し、100.6%となりました。類似団体と比較しても高い数値となっており、引き続き改善が必要な状況です。

八尾市は、実質公債費比率や将来負担比率から分かるように借金残高が類似団体と比較しても多すぎる訳ではありませんが、義務的に発生する経費を見直し、さらに効率的にお金を使うことが重要であるといえます。

今後、高齢化や子育て世帯などに対する社会保障関係経費や借金の返済金など、毎年かかる義務的なお金は高い水準で推移することが見込まれています。限られた行政資源を最大に活用するために、令和5年度に策定した「新やお改革プラン2.0」に基づき、社会状況の変化等をふまえた事業の廃止や縮小、新たな歳入の確保等の取り組みを通じて、持続可能な行財政運営をおこなうことが必要です。

※決算の詳しい内容は「八尾市財政の概要【令和5年度決算状況】」を市ホームページに掲載していますので、そちらを確認してください。

(参考) 八尾市の家計簿

八尾市の一般会計決算額を、年間の総収入が400万円の世帯に置き換えてみました。

収 入				支 出			
内 容	R4年度	R5年度	増減	内 容	R4年度	R5年度	増減
給料・本給 (市税)	131 万円	133 万円	2 万円	食 費 (人件費)	60 万円	61 万円	1 万円
給料・諸手当 (地方交付税・国庫支出金・府支出金)	201 万円	197 万円	▲ 4 万円	医療費・保育料 (扶助費)	103 万円	104 万円	1 万円
パート収入 (使用料・手数料・分担金・負担金・財産収入など)	47 万円	48 万円	1 万円	借金の返済 (公債費)	34 万円	30 万円	▲ 4 万円
貯金の取り崩し (基金からの繰入金)	1 万円	4 万円	3 万円	自宅の増改築費 (投資的経費)	23 万円	20 万円	▲ 3 万円
前年度からの繰り越し (繰越金)	3 万円	1 万円	▲ 2 万円	光熱水費・日用品代 (物件費)	51 万円	43 万円	▲ 8 万円
銀行からの借入れ (市債)	22 万円	17 万円	▲ 5 万円	車や家電の修理代 (維持補修費)	1 万円	1 万円	0 万円
合 計	405 万円	400 万円	▲ 5 万円	町内会などの会費 (補助費等)	90 万円	94 万円	4 万円
				子どもへの仕送り (繰出金)	35 万円	38 万円	3 万円
				貯金 (積立金)	6 万円	7 万円	1 万円
				その他 (投資及び出資金、貸付金)	1 万円	1 万円	0 万円
				合 計	404 万円	399 万円	▲ 5 万円

収入と支出の差額

次年度への繰り越し (R6年度への繰越金)	1 万円
--------------------------	------

R5年度末の貯金残高 (R5年度末の基金残高)	32 万円
R5年度末の借金残高 (R5年度末の市債残高)	282 万円

※財政調整基金と公共公益施設整備基金の合計

※一般会計における借金残高